

公債費のバランスを考
え慎重な財政計画を
財政の健全性を確保した
中期財政計画で



春緑クラブ
高橋 寿議員

問 25年度予算は前年度対比6.7%増になっています。新設小学校整備事業・交流拠点複合施設など数年にわたる事業がある事から村債の激増が必至であり、慎重な財政運営が望まれますが考えを伺います。

答 25年度予算は6.7%、9億9100万円の増となっています。総務費の防災・減災機能施設整備事業、賦課徴収システム更新事業、庁内LAN仮想環境構築事業など8億5200万の増、民生費は児童手当給付事業、子育て支援対策臨時特例事業など3億3400万円の増、農林水産業費は牧草地再生対策補助

問 新規就農者対策、農地の集団化・不耕作地の解消など政策を掲げて久しいが、目に

見えての効果がありません。そこで、政策実現のための新たな戦術を考えるべきと思います。また、担い手問題・新規就農者問題などの基本にあるものとして農業所得の問題が大きい事から地域ブランド化の構築による付加価値の高い産品対策が急務と思うが考えを伺います。

答 新規就農者については国の目標が現状の1万人から2万人となっている事から、目標達成のため「新規就農・経営継承総合支援事業」を予算化し、経営が軌道に乗るまで支援する青年就農給付金制度で対応します。農地の集積については耕種部門の小区画農地が多い事、農地が点在していることなどから敬遠され集積が進んでいません。また、農地が耕作放棄地に至る要因は農産物の価格低迷、作付制限・立地条件・担い手不足などが考えられ、「村農業再生協議会」「農地利用集積円滑化団体」更には農業関係団体との連携で耕作放棄地の解消に努めます。次に経営の拡大と合理化による所得向上については、生産に要する経費と販売価格の差額を国が直接交付する制度や、水田活用の麦、大豆、飼料用米などの生産への助成など、一定の補償水準が確保されると考えています。しかし、本村の農地は小区画である事で経費のかかる圃場が多いことから生活費を賄えるまで達していないと考えています。この事から「黄金の濃密りんご滝沢はるか」「クイックスイート」など生産奨励だけでなく加工品の研究開発や販売網の整備にも取り組んでいます。特に「滝沢はるか」は糖度や蜜入りを厳選し

問 村の基幹産業である農業の振興策が求められ、その手段の一つである6次産業化が重要と考えるが、村の特徴を活かしたその振興施策を伺います。

答 農地の集積については耕種部門の小区画農地が多い事、農地が点在していることなどから敬遠され集積が進んでいません。また、農地が耕作放棄地に至る要因は農産物の価格低迷、作付制限・立地条件・担い手不足などが考えられ、「村農業再生協議会」「農地利用集積円滑化団体」更には農業関係団体との連携で耕作放棄地の解消に努めます。次に経営の拡大と合理化による所得向上については、生産に要する経費と販売価格の差額を国が直接交付する制度や、水田活用の麦、大豆、飼料用米などの生産への助成など、一定の補償水準が確保されると考えています。しかし、本村の農地は小区画である事で経費のかかる圃場が多いことから生活費を賄えるまで達していないと考えています。この事から「黄金の濃密りんご滝沢はるか」「クイックスイート」など生産奨励だけでなく加工品の研究開発や販売網の整備にも取り組んでいます。特に「滝沢はるか」は糖度や蜜入りを厳選し

問 村の総面積の4割が森林です。森林は、林産物の供給、山地災害防止、水源かんよう、地球温暖化防止機能、生

答 これまで、さつま芋の「クイックスイート」やりんごの「はるか」の生産奨励を図り6次産業化に向けた取組を支援してきました。クイックスイートは他のさつま芋にない「しっとり」した特徴を生かした洋菓子の原料やほし芋、焼酎等の商品化を試みてきました。干し芋は「うんまいも」の名称で販売戦略を展開し、売上を伸ばしています。

問 森林の持つ機能は多岐にわたり、健全な保全策が叫ばれながら林業の衰退により手入れ不足が指摘されています。そこで本村の森林保全策について伺います。

問 民有林保全整備は、造林・除間伐及び枝打ちを実施する事業体を実施経費の助成を行います。村有林保全整備は、国・県の補助事業を活用しながら、除間伐等森林整備を計画的に実施していきます。

問 村の総面積の4割が森林です。森林は、林産物の供給、山地災害防止、水源かんよう、地球温暖化防止機能、生

答 現在、29年4月開校をめざし、準備を進めています。「新設小学校整備委員会」を設置し、キーワードを「安全・安心」

問 複合施設の開設に併せ、村内各地域と役場、複合施設を連絡する幹線交通網の整備について検討を進めると

品質保証したうえで販売しましたが、高価格設定にもかかわらず完売しました。確たるブランド化に向けて努めます。

問 いじめ・体罰・暴力が大きな問題になっているが、本村の現状と対策は如何か伺います。

答 いじめは「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものであり、起きた場所は学校の内外を問わない」と定義されています。本村の2月末現在での報告は14件になっています。その内容は「悪口」「物かくし」であり、万引強要、ケガを伴う暴力、恐喝の報告はありません。また、14件のうち12

問 建物の構造は、新設小学校整備委員会、「主体的には、鉄筋コンクリート」を基本とした堅牢で災害に強い建築物で、子どもたちが触れる箇所や空間の構成は、木材を適材適所に多用した施設とすること」としています。具体的には建物内部を木材で構成する「内装木質化」の採用を提言されています。今後、新設小学校整備委員会や地域の意見や要望を聞きながら、最終的な実施設計を行っていきます。

問 滝沢中央小学校校舎設計の基本的な考え方を伺います。

答 滝沢中央小学校校舎設計の基本的な考え方を伺います。

その他の質問

住民自治のあるべき姿と実現の方法は滝沢地域デザイン推進事業の見直しは



滝沢地域デザイン推進事業「クイックスイート」



滝沢地域デザイン推進事業「はるか」

村の特徴を活かした
6次産業の振興施策は
さつま芋やりんごの6次
化を図り他の開発も



しののめ会
黒沢 明夫議員

問 複合施設の開設に併せ、村内各地域と役場、複合施設を連絡する幹線交通網の整備について検討を進めると

このことから方向性では、公共交通の確保は「生きがいづくり」「元気な地域づくり」など